

「奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち」の情報誌

広報

おいらせ

子どもの視点で提案

ミニ議会（まちづくり推進委員会主催）は12月24日に開かれ、町内から16人の小学生が「議員」として参加した。町のごみ削減、環境対策に対し考えを提案した坂本怜美さん（木ノ下小6年）

Special Edition

おいらせ町
青年同

北の大地に芽吹いた
デジタル世代の
ヒューマンコミュニケーション

ROCHESTER, N.Y.
ATHLETIC APPAREL
Champion

Public
Relations
February
2011
No.72

2

おいらせ町 青年団

北の大地に芽吹いた
デジタル時代の
ヒューマンコミュニケーション



若者たちが集い、仲間を増やし、何か大きなことを成し遂げたい。そんな若者の思いをカタチにしてきたグループが「青年団」だ。かつて地域づくりの主役として、大活躍した時代があった。時代が便利になるにつれ、存在意義そのものが揺らぐ時期があった。それでも「原点」だけは忘れてはならないと、息を吹き返し始めた。デジタル時代の若者たちが、再び「人のつながり」を求めている。「地域を、心を動かしたい」と燃えている。

2

Oirase Town
Public Relations
February 2011
No.72

CONTENTS 目次

02	OIRASE FRONT PAGE —折館勝さん—
03	北の大地に芽吹いた デジタル時代の ヒューマンコミュニケーション おいらせ町青年団
12	Oirase Topics まちの話題 百石高校食物調理科のビュッフェ、子どもファイブ・ボール大会、成人式 ほか
14	Special Topics 上北地区総合型地域スポーツクラブパワーアップ研修、おいらせブランドアンテナショップ
16	平成 21 年度決算の概要 町のお金はこう使われた
18	おいらせアーカイブス
20	Monthly Oirase Information お知らせ◎交通災害共済受け付け、相談日、まちづくりフォーラム ほか
23	国民年金♥ガール
25	戸籍の窓
26	ミニ議会
28	ズームアップ —吉岡優衣さん—



「奥入瀬川の恵みと笑顔あふれる町」の情報誌・広報おいらせ2月号の印刷経費は1冊あたり約43円です

教えたくなる

この人

先輩から引き継ぐ「消防精神」 伝統の重さに引き締まる思い



折館勝さん

町消防団下田第8分団

おりだて・まさる◎1975(昭和50)年下田町(=当時)向山生まれ。丸運十和田運送に勤務し、自動販売機設置などを担当する。01年下田町消防団第8分団に入団。中堅団員として若手とベテランのつなぎ役を務める。祖父母、母と4人暮らし。おいらせ町向山在住、34歳

町消防団(立花國雄団長)出初式は1月16日、本庁舎前で開かれ、団員ら約200人が参加し、消防活動への士気を高めた。消防団旗を掲げる旗手を務めたのは、下田第8分団(松林大入分団長)に所属する折館勝さん(34) 向山。「ぜひこの役を務めたい」と志願した。行進の先頭に立ち、旗をしっかりと掲げ、堂々とした姿で行進した。「旗の重さに消防団の伝統、責任と自覚を感じた。身の引き締まる思いだった」と語る。消防団に入団したのは01年のこと。先輩団員から「消防団に入らないか」と誘われたのがきっかけだった。もともと祖父・五郎さんも分団長を務めていた。子どもの頃から消防団員の心意気を肌で感じていた折館さん。

迷わず入団した。入団当初は活動内容、動きが分からず苦労した。消防自動車 の操作、ホースのつなぎ方などはもちろん、防火水槽の把握など、覚えることは山ほどあった。先輩団員たちの指導は厳しかった。でも気持ちは温かかった。折館さんは「地域の人の命や財産を守るため、消防団は大切な役割だと教わった。やりがいを感じている」とにっこり。今は分団の中堅としての役割を担う。新たな団員候補への声かけを任せられるほど、先輩団員からの信頼は厚い。「みんなに安心してもらえよう、消防団員としての気概を持ち、訓練を重ねたい」と話す折館さん。きりりと引き締まったまなざしで前を見た。

結婚のきっかけは青年団活動

北向雅春さん・美紀子さん



活動しているうちに 愛情が芽生えていった

昭和61年に下田町連合青年団長を務めました。初めて民間企業に務める者が団長になりました。河島英五コンサートや下田まつりの山車製作など、思い出がたくさんあります。その頃、青年団のコーラスメンバーに加わった妻と知り合いました。優しく気遣いのある姿を見て、交際を申し込んだのを覚えています。私たちと同じ世代で一緒になった男女は何組もありました。青年団活動にはそんな楽しみもあったんです。(雅春さん談)

青年団で育まれた仲間との交流

柏崎源悦さん



若者の交流そのものが 青年団活動だった

昭和42年に下田町連合青年団に入団しました。これが私が関わった団体活動の原点です。49年に団長になった頃、上北郡内の青年団が参加した芸能発表会がありました。終了後の祝勝会をしていたときに「子ども(長男の源さん)が生まれた」と連絡が入ったことを覚えています。私たちの世代は、遊びそのものが青年団活動だったように思います。共に笑い、悩み、楽しんだ青年団の仲間たちとは、今でも交流が続いています。

いい意味で「対抗心」があった

平野敏彦さん



青年団活動は 郷土愛にあふれていた

私は昭和47年に百石町連合青年団長を務めました。当時、車を持っている若者はごく少数。一人の団員の車に男も女もすし詰めになるほど乗り込み、イベントや遊びに出かけたものです。女性も積極的な人が多かったですね。何をやるにも、みんないい意味で対抗心を燃やしました。何かを成し遂げるために必要な「強いリーダー」が青年団には必ずいました。青年団は地域を良くしたいという郷土愛にあふれた活動でした。



側溝の泥上げや清掃活動を行う一川目地区の青年団員ら。地域奉仕のため共に汗を流す青年団は、地域活動の多くを担っていた。

＝若いがゆえに熱く、がむしゃらに突き進めた＝ 青年団で燃やした 若者たちの心

戦後、日本全国に組織された青年団は、若者同士が交流を深め、地域に貢献する団体だ。かつて彼らは「友達の輪を広げたい」「やりがいを得たい」と燃えていた。彼らを突き動かした熱い思いの一端を垣間見ること、現代の若者にはない「何か」を感じられないだろうか。

青年団は各自治体ごとに組織された社会教育団体だ。そのルーツは江戸時代以前までさかのぼるといふ説がある。地域の自治団体、自警団体としての役割を担った。社会教育団体として位置づけられたのは戦後のことだ。最も活動が盛んだったと言われる昭和20年代から高度経済成長期にかけて、全国の青年団人口は約400万人に上った。彼らは地域の活動、イベントなどを積極的に運営。彼らの若い力は、地域づくりの大きな原動力になっていた。

本町でも下田町と百石町(当時)で青年団が組織されていた。各集落に青年団単位があり、芸能発表会やレクリエーション、奉仕活動を行っていた。単位会から連合組織に団員を送り込み、活動を盛り上げた。同時に青年団活動は、友との交流を深め、男女が知り合う絶好の機会を提供した。青年団活動がきっかけで知り合い、仲を深め、一生の伴侶を得た男女も多い。共に楽しみ、悩み、汗を流したからこそお互いを深く理解し合えた。青年団活動は今でも言う「婚活」の機能も果たしていた。当時を知る元団長は言う。「あの時代は若者同士で集まって、いろいろな活動するのがとにかく楽しかった。でもただ楽しんでいただけじゃない。仲間の輪を広げたい、地域に尽くしたい、喜んでもらいたい―それこそが青年団活動の目的、原点だった」今や60歳を過ぎた団塊世代の人々が若者だった頃は、みんなが笑顔で集い、熱く燃やたぎるエネルギーを青年団で爆発させた。昨今のデジタルとは無縁の時代―物質的には決して豊かではなかったかもしれない。でも団員は強い絆で結ばれ、楽しみ、地域を盛り上げようという気概を持っていた。



酒を酌み交わし、夜が更けるのも忘れて熱く語り合う。団員は夢や希望、地域への思いを互いにぶつけ合い、郷土を支える人材に育っていった。



青年団主催の陶芸教室で、慣れない手つきで湯飲みを作る青年団員ら(昭和56年)。青年団活動は互いに学び合う「社会教育」の場でもあった。



ダンスパーティで踊る青年団員ら。若者は男女共に青年団活動に積極的に参加した。これらの活動をきっかけに結ばれた男女も多い。



八甲田大岳(1,585m)頂上で踊る青年団員(昭和53年)。青年団はさまざまな交流会を開いた。交流で絆を深め、明日への英気を養った。



全国青年大会・合唱の部に出場した青年団員(昭和50年)。合唱など文化活動だけでなく、スポーツや郷土芸能でも全国大会に出場した。



百石中学校前で交通安全指導を行う青年団員ら。現在は町や他の団体がやっているような活動だが、青年団が役割を担っていた時代があった。



小川原湖畔で開かれた第1回下田町連合青年団キャンプ大会の記念写真(昭和42年)。キャンプファイヤーで上北町連合青年団とも交流した。



本村青年朋友会が設立10周年を記念し開いた芸能祭(昭和33年)。当時は地域ごとに青年団があり、さまざまなイベントを催していた。



下田まつりに完全自作の山車を参加させた青年団。「子どもたちの夢をかなえたい」という思いをカタチにした（平成12年9月24日撮影）

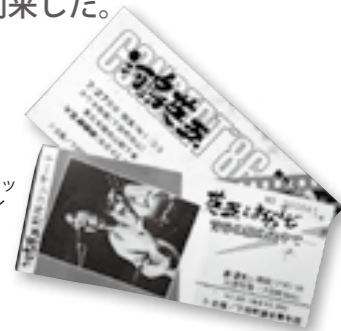


河島英五さん（左から3人目）と青年団スタッフら。小さな町の青年団が前代未聞の大イベントを成功させた（昭和58年8月21日撮影）

＝夜も寝つけぬほどの情熱とは裏腹に失われた活気＝

「奮闘」から 「停滞」へ

団塊世代が青年団活動から退いた後、若者たちはさらに活動を盛り上げようと結束した。下田町連合青年団は独自のイベントを企画した。百石町連合青年団も町の行事などを力強くサポートした。しかし平成に入ると、活動は次第に活気を失い始める。奮闘の時代から停滞の時代へ—青年団の存在意義を問い直す時期が到来した。



昭和58年、61年の河島英五コンサートチケット。「英五とおらん」のネーミングに、イベントにかける青年団員の思いが伺える

昭和50年代後半、これまで青年団活動を支えてきた団塊の世代が第一線から退き、新しい世代の若者が中心になり始めた。

昭和30年代に生まれた団員は、音楽やファッションなど、新たな文化が流行し始めた世代でもある。これまでなかった新しい試みを積極的に展開した。

百石町連合青年団はダンスパーティー、町民交流ビアガーデンなどを積極的に開き、若者同士の交流の場を提供した。今でも百石地区はダンスなどの文化活動が盛ん。青年団も一役買っていた。

百石まつり、砂浜まつりや成人式など、町が主催するイベントにもスタッフとして参加し、舞台裏

をしつかり支えてきた。

下田町連合青年団は青年団独自のイベントを開催。今や伝説として語り継がれているのは、昭和58年、61年の2回にわたり、河島英五さん（故人）をカワヨグリーン牧場に招いた野外コンサートだ。

「これまでやったことのない、斬新なイベントを青年団の手でやりたい。その思いで前に進んだ」

こう話すのは、当時社会文化担当常任理事、後に団長を務めた北向勝さん（53）錦ヶ丘。

青年団は実行委員会を組織し誰を呼ぶか▼どのようにイベントを運営するか▼チケット販売方法は どうするか—など、議論を重ねた。「どうせやるなら、誰もが聞き

たいと思える歌手を呼びたい」

団員の思いは強かったが、ほとんどの音楽事務所は相手にしてくれない。数十件も連絡したが連絡は来ない。団員らには焦りが見えた。しかし河島英五事務所から「興味深い。ぜひ話を聞きたい」という電話が来た。河島さんは当時「酒と泪と男と女」などヒット曲を出したシンガーソングライターだ。光が見えてきた。

団員らの奮闘が始まった。チケットを少しでもたくさんの人に買ってもらうため、毎晩のように飲食店などに通い、声を掛けた。運営のノウハウは音響業者やライブハウスの店員から教わった。イベントを成功させたい、地域の文化を高めたという思いで、みんな必死だった。

コンサートはいずれも500人以上の観客が集まった。誰もが河島さんの歌に酔いしれた。みんなが笑顔だ。イベントは大成功だった。翌59年、下田町連合青年団は下田まつりに山車を参加させた。自前で山車の台車を手配し、装飾した。毎晩のように遅くまで残って作業を続けた。

北向元団長は「当時参加していた山車は三田の3つの山車組だけだった。引き子に加わることできなかった子どもたちに、祭りの楽しさを味わってほしかった」と参加のいきさつを語る。

しかし思いとは裏腹に、青年団

に加わる若者は次第に減っていった。新しい娯楽、レジャー環境が整うにつれ、若者が集まるのが少なくなった。平成7年にはついに百石町連合青年団が解散。下田町連合青年団も地域の単位会が次々と消滅した。16年には山車台車の老朽化、引き子の減少などで祭りへの山車参加ができなくなった。県内でも青年団は次々と消滅。いよいよ「青年団活動はもう無理か」という声が出始めた。青年の「ともし火」は消えかけていた。

眠れない夜もあった——北向勝さん

青年団で運営した河島英五コンサートは、当時は画期的な取り組みでした。素人が自分たちの手でコンサートを作り上げるなんて、ほとんど事例はありませんでした。手探り状態でした。うまくいかどうか心配で、毎晩眠れない夜を過ごしました。青年団は若いときでなければできないこと、躍起になれることを実現できる場でした。みんな夢中で「地域を盛り上げよう」と意気込んでいました。



サンタクロースの格好で子どもたちにプレゼントを手渡す青年団員。子どもたちも大喜び



奥入瀬川沿いのごみを拾う青年団員ら。清掃活動を通じてごみ減量の大切さを感じ取った

「奈落の底から見えた一筋の光明」

復活の鍵は 原点にあり

「青年団活動の継続はもはや限界。やめてしまおうか」——そんな悲しい声やささやかれた「停滞期」を乗り越え、青年団は少しずつ復活し始めている。「何のために」「誰のために」「どうして」——そんな自問自答を繰り返すうちに見えてきたもの、一度は沈み込んだ彼らの気持ちを再び持ち上げたもの——それは青年団活動の「原点」そのものだった。

平成18年3月、おいらせ町が合併により誕生した。それまで存続していた下田町連合青年団は旧百石地区の若者を取り込み、新たに「おいらせ町青年団」として発足した。

すでに祭り山車製作など、大事業から撤退していた青年団。「友達の輪を広げよう」「地域を盛り上げ、喜んでもらえる活動をしよう」などの目標を掲げ、再スタートを切った。

団員は町職員や看護師、保育施設や企業など、さまざまな職業の若者が少しずつ集まり始めた。交友の輪が広がり始めるに連れ、活動そのものが少しずつ盛り上がってきた。

さまざまな団員が集まると、次は具体的にどんな活動をしようかと話し合いが持たれるようになる。「自分たちも楽しみながら人の役に立ちたい」「友と共にやりがいを感じたい」——いつの間にか忘れていた青年団活動の原点の思いが、どんどん団員の口から発せられるようになった。

10月末、奉仕活動「奥入瀬川クリーンウォーク」を実施した。町最大のイベント「日本一のおいらせ鮭まつり」直前の清掃活動で、来場客に気持ちよく過ごしてもらいたいという願いを込めた。10⁺近くある川沿いを自分たちの足で歩くことで「きれいな奥入瀬川を守らなければ」という思いを持った団員も多い。

子どもたちのクリスマスプレゼントを事前に預かり、サンタクロースに仮装して家庭に届ける「出張サンタクロース」も今年青年団の名物行事だ。今回初めて参加した江刺佑一さん（25）向山は「こんなに喜んでもらえるなんて」と驚きを隠さない。決して昔の盛んだった頃の活動には追いつかないかもしれない。でも今の若い世代も、青年団の精神は忘れていない。少しずつ復活し始めた青年団——復活の鍵はまさに「原点」にあったのだと、団員らは徐々に手応えをつかんでいるようだ。



江刺 佑一さん (25・向山)

青年団活動に最近参加したばかりです。団員の友人から「一緒にやらないか」と誘われたのがきっかけです。出張サンタクロースではさまざまな人から「ありがとう」と感謝の言葉を掛けられました。うれしかったですね。人に喜んでもらえ、自分たちも楽しめ、やりがいを感じます。違う職業、違う年代の団員と活動することで、交流の輪がさらに広がりそうです。



沼端 瞳さん (30・日ヶ久保)

私は3年前から青年団活動に関わっています。最初は知らない人ばかりで不安でした。でも一緒に活動することで、すぐに打ち解けることができました。奥入瀬川の清掃活動も楽しみな活動の一つ。毎年ごみを拾いながら、美しい景色を眺めるんです。「こんなにきれいな奥入瀬川を汚しちゃいけない」「子どもたちにずっと伝えなきゃいけない」、そう思います。

「ケータイ」で入団申し込みも可

携帯電話（＝ケータイ）は今や日常生活に欠かせないツール。出張サンタクロースでは気軽なメール機能を使い、希望者を受け付けた。団員募集も受け付ける。入団希望者はメールで簡単に申し込みできる。気軽に問い合わせしてほしい。

町青年団事務局次長 堤大輔（つづみ・だいすけ）
メール bushido-masamune.sonotoki_2236@docomo.ne.jp
電話番号 ☎ 090-5846-0966





町生涯学習フェスティバルで昔ながらの餅つきを披露。地域に伝わる食文化を子どもたちへ継承する

Top * Interview

若者の思いを地域づくりへつなげたい

おいらせ町青年団 田中繁幸 団長

若者同士のつながりが希薄になってきていると言われる今、青年団として存続する本町青年団は今や貴重な存在だ。地域のために尽くし、若者同士の交流を深める青年団活動。その魅力や思いを団長に聞いた。

PROFILE たなか・しげゆき◎昭和51年下田町(=当時)本村生まれ。平成15年下田町役場(=当時)に入庁。現在は商工観光課で勤務し、イベントなどを担当する。21年町青年団長に就任。活動に意欲を見せる。おいらせ町木内々在住、34歳



青年団活動に関わるようになった8年前は「祭りの山車作り」が主な活動でした。というよりも、それ以外に活動はなかったように思います。その山車作りも存続できなくなりました。団員は次第に役場の職員ばかりになり、数も減りました。山車の台車は老朽化し、壊さなければならなくなりました。いよいよ「青年団はもう解散か」という声が団員から上がるようになってきました。

「何とか歴史ある青年団を存続させたい。もつと地域を盛り上げる活動をしたい」

そんな思いを持っていた平成21年4月、青年団長を引き受けました。団員と話し合い▼多くの若者に青年団の良さを知ってもらおうこと▼さまざまな分野の団員で交流を深めること▼少しでも地域や人に喜んでもらえる活動をする。などを活動に取り入れようと考えました。

現在、団員は40人余りです。さまざまな職業の人が団員として加わりました。大変うれしいことです。一時の停滞期に比べ、少しずつですが息を吹き返しています。新規事業「出張サンタ

クロス」は多くの人に喜んでもらえました。「やって良かった」と心から感じました。

昔と違い、今は車を一人一台持つ時代です。遊びに行くのも一人で行けます。携帯電話もそうです。まさにデジタルの時代で、多くの情報を一度に伝達できる便利な時代です。顔を見なくても、一通りのコミュニケーションを取ることはできます。

でも互いに意見を交わし合い、時にはぶつかり、時には喜びを分かち合う。そんな体験はバーチャルな付き合いだけでは味わえないと思うのです。青年団活動が盛んだった先輩たち、アナログ世代の熱い気持ちをしっかりと受け継ぎながら、デジタル時代の便利さを上手に組み合わせ、活動を展開したいと思っています。

昔に比べ、若者同士の関わりが希薄になってきたと言われています。でも「仲間を広げたい」「何かを成し遂げたい」と思っている若者は今もたくさんいます。若者の思いを地域づくりへつなげられるのは、青年団ならではの醍醐味。だからこそ熱い思いを持つ若者と一緒に、これからも活動していきたいです。

かつて青年団は盛んで、どこにでもあった。かつて青年団員は、地域活動の多くを担った。活動そのものが地域に根ざし、存在感があった。仲間と共に笑い、泣き、悩み、汗を流した。そこで得た友が、一生涯の友、伴侶になった。そんな歴史の積み重ねを垣間見て、再び息を吹き返し始めた青年団がこの町にある。昔のように、大きなことはできないかもしれない。でも仲間を愛し、地域を愛する心は忘れていない。若者だからこそできる何かをしたい。地域に役立ち、交流を深められることをしたい。その気持ちを胸に抱くだけでなく、実際にカタチにすることで地域づくりにつながる。デジタル世代の新たな青年たちの芽は、アナログ世代の先輩たちの情熱を受け継ぎながら、少しずつ、少しずつ高みを目指し伸び始めている。みんなと共に、誰かのために、やりがいを感じたい。これこそ青年団の、地域づくりの原点ではなかったか。さあ、前に進んでいこう。これから、ここから。

Special Edition

北の大地に芽吹いた
デジタル世代の
ヒューマンコミュニケーション

おいらせ町 青年団

新年の思いを筆にしたためる 新年かきぞめ大会

▶▶▶ Jan.06-2011



新年かきぞめ大会は1月6日、町民交流センターで開かれ、町内から約120人の子どもたちが参加しました。課題は「ひろい空」や「計画実行」など、学年ごとに決められています。参加者は真剣な表情で半紙に向かい、筆を走らせていました。3年生の部で参加した馬場雄聖君(木内々小3年)は「書いた字(明るい年)のように、今年はいいことがたくさんあってほしいと願って書きました」と笑顔でした。

◀3年生の部で入賞し、にっこり笑顔の子どもたち

腕によりをかけた料理に舌鼓

▶▶▶ Dec.17-2010



県立百石高校(西澤孝悦校長、生徒539人)食物調理科は12月17日、季節の食材を使った料理をもてなすビュッフェを開きました。これは1月に開かれる成人式で披露する料理などを試作し、評価してもらうもの。生徒たちは「いらっしやいませ」と大きな声であいさつしながら、料理を振る舞いました。町連合婦人会員の成田いつ子さんは「どのメニューもとてもおいしい」と太鼓判を押していました。

◀生徒手作りの料理に成田さん(写真右)も思わずにっこり

友と再開喜び大人の仲間入り 成人式

▶▶▶ Jan.09-2011



成人式は1月9日、町民交流センターで開かれ、町出身の新成人196人が参加しました。式典が始まると、新成人は名前を読み上げられ一人ずつ入場。華やかに着飾った振袖姿やリリしいスーツ姿に、保護者や関係者から温かい拍手が寄せられました。式典後は百石高校食物調理科生徒の手作り料理が振る舞われました。新成人は料理に舌鼓を打ちながら、友人や恩師との再会を喜んでいました。

◀久々に再会した友人同士、笑顔で乾杯する新成人

師走の交通安全・防犯活動 安全運転を積極啓発

▶▶▶ Dec.17-2010



「県下一斉特別警戒取締り夜間活動出動式」は12月17日、イオンモール下田で開かれ、交通安全協会や交通安全母の会、防犯協会など関係団体約100人が参加しました。12月末は1年で最も日没が早く、道路も凍結しがちです。交通事故や犯罪が発生しやすいため、関係者は町内をくまなく巡回し、安全運動を実施しました。東地区の交通指導隊員らは本町地区の飲食店を巡回。ポスターを配布しながら、飲酒運転の根絶を呼びかけました。

◀ポスターを渡し飲酒運転根絶を呼び掛ける田畑清吉交通指導隊員(写真左)

団員一致団結し士気を高める 消防団出初式

▶▶▶ Jan.16-2011



町消防団(立花國雄団長)の出初式は1月16日、本庁舎周辺で開かれ、団員200人余りが参加しました。団員らは式の前に消防車両を点検。大きな声で「車両点検異常なし」と報告していました。分列行進では引き締まった表情で行進し、観閲を受けていました。立花団長は「消防団は人命、財産を守る大切な役割を担う。団員は責任と誇りを持ち、日々の訓練をしっかり重ねてほしい」と訓示していました。

◀車両点検を終え大きな声で報告する分団員ら

交通安全を願い決意新たに 町交通指導隊出動式

▶▶▶ Jan.03-2011



町交通指導隊出動式は1月3日、本庁舎前で開かれ、隊員含め30人余りが参加しました。隊員は氣比神社で交通安全を祈願した後、本庁舎前で出動式に臨み、交通安全協会会長や町長から服装点検などを受けていました。川口弘治町交通安全協会会長は「今年は交通死亡事故を出さないようにしたい。隊員の活動が大変重要だ」と訓示。隊員らは表情を引き締め、決意を新たにしていました。

◀町長、交通安全協会会長から点検を受ける交通指導隊員ら

夢ある「ほら」に観客大爆笑 新春!うそ八百ほら吹き大会

▶▶▶ Jan.16-2011



新春!うそ八百ほら吹き大会は1月16日、みなくる館で開かれ、町内外から約400人が訪れました。この大会は地域資源などを題材にした「ほら」で笑いながら、まちづくりのヒントを探ろうとするものです。今年の出場者は7人。「ホッキガイにサケのエキスを加えた精力増強剤を開発した」「間木堤のハクチョウに特産のナガイモを与えたら、鳥インフルエンザが治った」など、思い思いのほらを披露。観客の大爆笑を誘っていました。

◀アレックスさん(むつ市)は大会初の外国人参加。観客の笑いを誘った

おいらせ発祥の競技を楽しむ 子どもファイン・ボール大会

▶▶▶ Jan.05-2011



子どもファイン・ボール大会は1月5日、町民交流センターで開かれ、町内から90人余りが参加しました。ファイン・ボールはおいらせ発祥の軽スポーツ。榎山忠さん=間木=が「体が不自由な人でも楽しめるように」と考案したものです。町内はもちろん、全国にも広まりつつあり、注目されています。遠藤紫音君=鶉久保=は「ボールをスティックですくい上げるときは、力加減が大切」と話していました。

◀ゴールネット目がけてボールをすくい上げる遠藤君(写真左)



▲「ホッキの甘みがなんとも言えない」。熱々のホッキガイ焼きをほおぼると、自然と笑みがこぼれてくる



子どもや高齢者の健康のため スポーツに親しめる環境づくり

File_01★ 上北地区総合型地域スポーツクラブパワーアップ研修

「上北地区総合型地域スポーツクラブパワーアップ研修会」は12月18日、町民交流センターで開かれ、郡内から多くの参加者が集まった。子どもも大人も夢中でティーボールやソフトバレーボールで汗を流した。プレー後は総合型地域スポーツクラブの運営や今後のあり方などを熱心に話し合った。スポーツは健康を維持するために大切なライフスタイルの一つ。競技だけでなく、みんながどこでも、いつでもスポーツに親しめる仕組みの構築が求められている。

▲ティーボールを楽しむ田中雪乃さん（甲洋小4年）。止まったボールを打つため、野球を経験したことのない人でも気軽に楽しめるのが魅力だ。

おいらせブランドアンテナショップ「おいらせ新鮮市場」(以下「ショップ」)は補助事業を活用した直売施設だ。現在、公募により登録した22人が特産品を販売する。町ブランド推進協議会事務局もショップ内に入っている。

このショップを運営するのは町物産振興会(苦米地義之会長)。12月23日のオープンに向け、店内改装や品物陳列などが急ピッチで進められた。

オープンセレモニー後はホッキガイ焼きやナガイモすいとんのサービスタなどが行われ、多くの客が旬の味に舌鼓を打った。

苦米地会長は「地産地消の拠点として、おいらせの魅力を全国に発信していきたい」と意気込む。郷土の魅力を発信する体制が整いつつある。

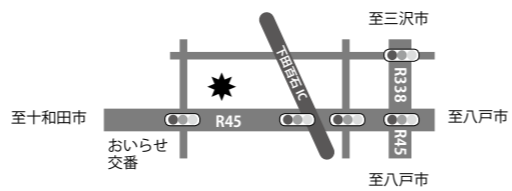


1「おいらせの魅力をここから全国発信したい」。意気込みを語る苦米地会長
2 店内には旬の野菜や加工品などがずらりと並ぶ。大きな窓のため採光も十分だ
3 青森名物のリンゴも販売。その味に小向光洋さん家族=中新町=も思わずにっこり

おいらせの魅力を 全国に発信

File_02★ ブランドアンテナショップオープン

ブランドアンテナショップ「おいらせ新鮮市場」は12月23日、イオンモール下田内にオープンした。県内有数の集客力を誇るイオンの利を生かしたショップから、おいらせの魅力を全国発信する。



場所●イオンモール下田食品館南口隣 営業時間●10:00～18:00
おいらせ新鮮市場 ☎0178-50-3182
おいらせブランド推進協議会 ☎0178-20-9540 <http://oirasekiyoraka.com/>



▲ソフトバレーボールを楽しむ参加者。柔らかいボールを使うため、子どもも大人も共にプレーできる。

小学生や中学生の間で普及しているスポーツは、部活動やスポーツ少年団などで行われるのが一般的。サッカーや野球などの「競技スポーツ」だ。しかし近年、「スポーツをしない子どもや高齢者」にも機会を提供しようという気運が高まっている。誰もがいつでも、さまざまな軽スポーツに親しめる環境づくりが進められている。これが「総合型地域スポーツクラブ」と呼ばれるものだ。本クラブは行政主導ではなく、自主的な取り組みや運営が求められる。指導的役割に「クラブマネージャー」を置き、経費は参加料などを元に運営する。本町にはまだ組織されていないが、設立に向け検討が進められている。

本研修会で八戸由美子クラブ育成アドバイザー(県体育協会)はクラブの必要性を語った。参加者に対し「子どもの健康を守るため、今こそ親だけでなく地域の力が必要」と力を込めた。



県体育協会クラブ育成アドバイザー
八戸由美子 さん

総合型地域スポーツクラブは、現在県内22市町村で設立しています。青森県は全国に比べて運動量が少なく、肥満が多いのは大きな悩み。誰もが気軽にスポーツを楽しめる機会の一つとして、おいらせでも立ち上げを検討してはどうでしょうか。



スポーツクラブみさわクラブマネージャー
國分修 さん

「スポーツクラブみさわ」は04年に立ち上げた総合型地域スポーツクラブです。スタッフみんなが「三沢の子どもを健やかに育てよう」という強い気持ちを持っています。自主運営は確かに大変ですが、それだけに大きなやりがいを感じています。

RYMAN'S VOICE

一般会計

平成 21 年度決算の概要

主な事業

1 防災行政無線放送整備事業

町内全域の家庭に防災行政無線を設置しました。防災情報などを快適に得ることが出来ます。事業費は約4億6千万円です。

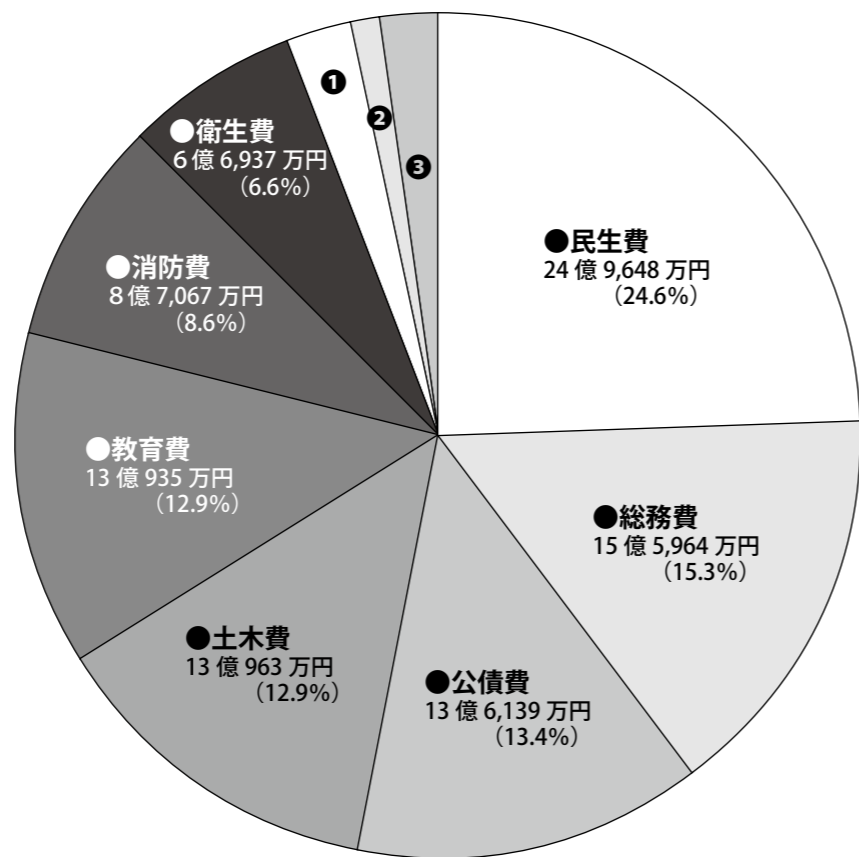
2 百石中学校校舎改築事業

老朽化した旧校舎に代わり、新校舎を建てます。今年度中に完成し、快適な教育環境が整います。事業費は約4億2千万円です。

3 町道などの整備事業

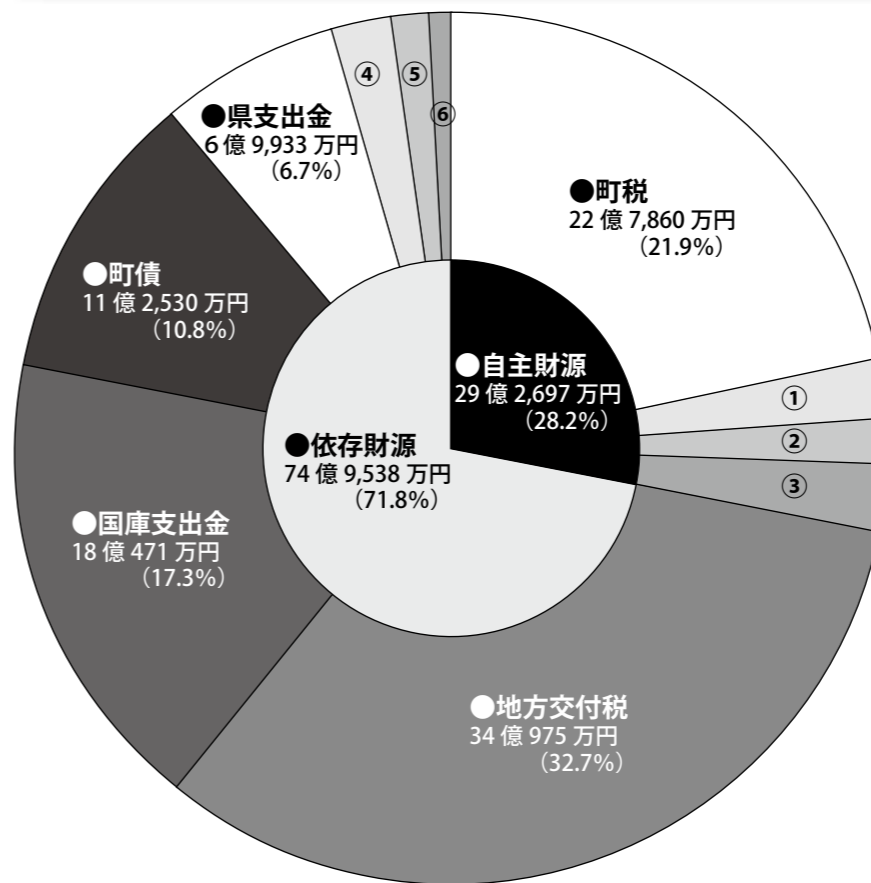
下田公園とイオンモール下田付近をつなぐ道路「町道間木・百石1号線」の整備などを整備中です。事業費総額は約6億円です。

歳出総額 101億6,011万円



- ①農林水産業費 / 2億4,976万円 (2.5%)
- ②労働費 / 1億2,303万円 (1.2%)
- ③その他 / 2億1,078万円 (2.0%)

歳入総額 104億2,235万円



- ①分担金・負担金 / 2億672万円 (2.0%)
- ②繰越金 / 1億9,769万円 (1.9%)
- ③諸収入など / 2億4,396万円 (2.4%)
- ④地方消費税交付金 / 2億1,823万円 (2.1%)
- ⑤地方譲与税 / 1億4,979万円 (1.4%)
- ⑥その他の交付金 / 8,827万円 (0.8%)

平成21年度「町の家計簿」の状況をお知らせします。

町の こうのお金は 使われた

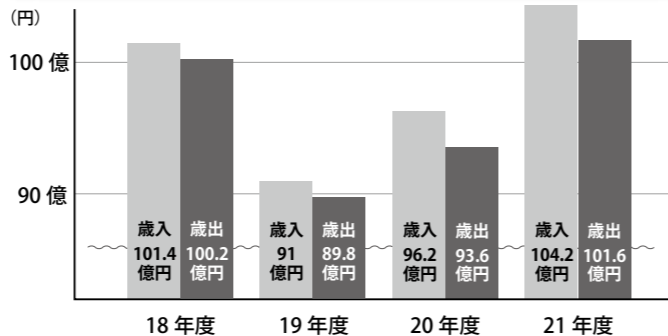


特別会計の決算額

特別会計の種類	歳入	歳出	差引額
国民健康保険	26億7,231万円	26億1,065万円	6,166万円
老人保健	1,132万円	1,022万円	110万円
奨学資金貸付事業	1,608万円	1,585万円	23万円
公共下水道事業	12億388万円	11億9,533万円	855万円
農業集落排水事業	1億617万円	1億168万円	449万円
介護保険	17億4,219万円	17億699万円	3,520万円
霊園事業	1,434万円	1,396万円	38万円
公共用地取得事業	1億1,341万円	1億1,336万円	5万円
後期高齢者医療	1億3,254万円	1億3,163万円	91万円

特別会計は特定の事業に使われる会計です。21年度は全ての事業で黒字決算になりました。

一般会計決算額の推移



21年度は歳入歳出の差引額2億6,224万円のうち、繰越事業の財源として1億732万円を差し引き、8,000万円を基金に積み立て、残りの7,492万円を22年度に繰り越しました。

町の主な事業を支える一般会計の支出額は、20年度と比べ約8億円増え、約101億6千万円です。増加の理由は、百石中学校校舎改築(約4億2千万円)▼防災行政無線放送の整備(約4億6千万円)など、大規模な事業を展開したためです。財源は税金などのほか、国などからの補助金を活用しています。歳入額から歳出額を差し引いた額は約2億6千万円。そのうち8千万円は将来のために基金に積み立てています。

一般会計のほか▼国民健康保険▼後期高齢者医療▼公共下水道など、特定の事業に使われる特別会計があります。これらは全て黒字決算になりました。

町の台所を支えるためのお金は、皆さんからいただく町税などで支えられています。限られたお金で最大のサービスを提供できるように、これからも町は検討を重ね、積極的に事業を進めていきます。

さらに詳しい財政状況は、町ホームページから資料をダウンロードすることができます。

財政用語の解説

民生費 * 児童、高齢者、障害者などへの福祉、保育所の運営などに使うお金
総務費 * 交通安全や庁舎管理などに使うお金
公債費 * 施設建設など大規模事業で借りたお金を返すためのお金

土木費 * 町道の補修や改良など、インフラ整備に使うお金
教育費 * 小中学校など教育環境の整備、生涯学習や文化財保護などに使うお金
衛生費 * 保健事業や健診などに使うお金

安全運転を心掛けよう

22年中に青森県内で発生した交通事故は5,842件。死者66人、負傷者7,162人です。

事故発生件数や負傷者数は21年に比べ減り、14年以降9年連続で減少しています。

しかし死者数は16人も増え、66人になりました。増減率は32%で全国ワースト2位です。

歩行中の高齢者が事故に遭うことが多くなっています。運転者は前方不注意

などが原因で事故を起こしているようです。

交通事故は自分だけでなく、家族や親類までも不幸にします。運転は十分気をつけてください。



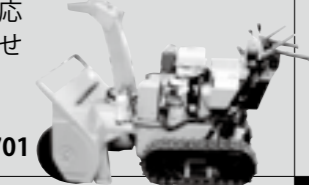
総務課 ☎ 0178 2166

みなさんのお役にたちます 宝くじ

宝くじ助成金は宝くじの売上金を元にしたものです。地域を活性化する事業などに使われます。

このほど緑ヶ丘町内会は、宝くじ助成を使い歩道除雪機などを購入。地域で自主的な除雪作業を展開しようとしています。

来年度の事業申請は終わりましたが、申請方法や対象事業などは随時対応します。気軽に問い合わせください。



企画課 ☎ 0178 4701

体育協会加盟団体

Oirase Sports Association

File 6 ママさんバレーボール協会

(西館恵美子会長、会員20人)



ママさんバレーボール協会は郡総合体育大会、県民体育大会などで常に上位の成績を収める強豪です。

忙しい時間をやりくりしながら流す汗は、最高に気持ち良いものです。日常のうっぴんをボールにぶつけ、不満解消しています。

年会費は1人3,000円。ベテランから初心者まで、入会大歓迎です。気軽に連絡してください。

●問い合わせ ママさんバレーボール協会
西館恵美子 ☎ 0178 2748
(百石建築組合、勤務)

図書館/新着図書

Oirase new-book's information

図書館おすすめの本を紹介します。



KAGEROU

一般書

齋藤智裕 著

廃墟と化したデパートの屋上遊園地のフェンス。「かけるう」のような己の人生を閉じようとする、絶望を抱えた男。肉体と魂を分かちつものはないか。深い苦悩を抱え、主人公は終末の場所へと向かう。【町立図書館】



池上彰の新聞活用術

一般書

池上彰 著

新聞はどうあるべきか、どこに魅力があるのか。そして読み手はどう活用していけばいいのか。ニュース力、数字力、推理力やコミュニケーション力。さっそくのぞいてみましょう。【町立図書館】



体脂肪計タニタの社員食堂〈続〉

一般書

タニタ 著

社員だけでなく読者もやせた。野菜たっぷり、カロリーと塩分控えめの料理に魚料理をぐんと増やしたレシピ30と、赤ちょうちんレシピ22を紹介。100万部突破のベストセラーに続く第2弾。【町立図書館】



滅びの花園

一般書

赤川次郎 著

舞台は古代ローマ。現代から時空を超えてやって来た少年バスチアン。目覚めたのは「暴君ネロ」の宮殿だった。バスチアンは友人を危機から救えるのか。ローマを絶望から救うことができるのか。【町立図書館】



音楽家の名言

一般書

檜山乃武 著

あなたの音楽観を変える。演奏までも変える。亜音楽をあきらめかけていたあなたの背中を押す。モーツァルト、ベートーヴェン、ショパンなど、壁を乗り越えた音楽家たちの名言127を掲載。【町立図書館】

ほかにも新着を取りそろえています

30～40代独身のための親の介護と仕事を両立させる本(上原喜光)、このミステリーがすごい! 2011年版(宝島社)、純恋(新堂冬樹)、風の中の櫻香(内田康夫)、小暮荘物語(三浦しをん)、孤舟(渡辺淳一) ほか

図書館の行事

Oirase-library event information

■本展示(バレンタインデーにちなんで)

一般●愛のかたちそれぞれ
児童●恋のおはなし

■読み聞かせ会

2月12日④、26日④ 14時から

■幼児のための読み聞かせ&布絵本で遊ぶ会

2月17日⑥ 10時半から

■2月の休館日

7日⑧、14日⑧、21日⑧、28日⑧

町立図書館 ☎ 0178 3900

おいらせアーカイブス File_036



すきぐし 梳櫛

【民具ふれあい館所蔵】

シラミは人の皮膚に寄生して血液を一日数回も吸う。その後はとてもかゆくなった。シラミを捕まえ歯で噛んでつぶしたり、親指の爪と爪とでつぶしたりした。衣類は煮沸してシラミを殺した。
人に寄生するシラミは3種類いる。▼キモノシラミ(コロモシラミ) ▼ケジラミ ▼アタマジラミである。アタマジラミは頭髪中に寄生し、髪の毛にムシノゴ(卵)を産み付けた。ムシノゴを取り除くために梳櫛が使われた。子どもは親

や兄弟に髪を梳いてもらった。櫛目は細かいが、粗さの異なる櫛目を背中合わせにした大両歯もある。これに鞘がセットになっていた。
戦後GHQ(米軍総司令部)は全ての日本人にDDT(有機合成殺虫剤)を散布した。ノミやシラミは全滅し、発疹チフスの流行を防いだ。
今では目にする事すらないシラミだが、「シラミ潰し」という言葉だけは生きている。
文/町文化財保護審議会委員 櫻庭俊美

Let's use "Shimoda & Mukaiyama Station"



下田駅・向山駅なら駐車無料

東北新幹線に乗るために八戸駅駐車場を使うと駐車料金が掛かります。下田駅や向山駅の駐車場なら料金は無料。「青い森鉄道」は私たちみんなの鉄道です。積極的に利用しましょう。

Momoishi Enburi Information



伝統の百石えんぶりは2月15日から開催

百石えんぶりは豊年満作、五穀豊穡を願う郷土芸能です。2月15日から始まり、子どもたちがかわいらしい舞いを披露します。気軽に足を運んでください。
●日程
①2月15日④
9時半/若宮八幡宮で奉納
10時/法運寺
10時半/カワヨビル駐車場

●17時/本町地区で門付け
②2月16日④
本町地区門付け
③2月17日⑥
10時/八戸えんぶり一斉参り参加
13時/本町地区門付け
*天候により時間が変わる場合があります。
●駐車場 分庁舎駐車場(分庁舎西側または南側第2駐車場)などを利用してください。
●問い合わせ 生涯学習課 ☎ 0178 4276

おいらせが誇る伝統芸能が一同に集結

第2回おいらせ町民俗芸能発表会

●日時 3月6日⑧ 10～14時

●場所 みなくる館

●出演団体

若宮八幡宮大神楽、百石えんぶり、日ヶ久保虎舞、若宮八幡宮大権現、南部百石駒踊り、本村鶏舞、本村獅子舞、本村さんさ踊り

●問い合わせ

生涯学習課 ☎ 0178 4276



交通災害

1日1円の掛け金
交通災害共済に加入を

☎ 0178 56 2166

交通災害共済は、国内ならどこでも交通事故に遭っても弔慰金や見舞金を受けられます。自動車事故はもちろん、自転車でのけがにも適用されます。

2月1日から来年度の申し込みを受け付けます。町内会などで団体加入もできます。気軽に申し込んでください。

災害の程度	等級	共済金額
死亡したとき	1	100万円
実治療日数 180日以上	入院 180日以上を含む	2 15万円
	入院 90日以上 180日未満を含む	3 13万円
	入院 90日未満、入院なしを含む	4 11万円
90日以上 180日未満	入院 90日以上を含む	5 8万円
	入院 90日未満、入院なしを含む	6 6万円
実治療日数 60日以上 90日未満を含む	7	4万5千円
実治療日数 30日以上 60日未満を含む	8	3万5千円
実治療日数 10日以上 30日未満を含む	9	2万5千円
実治療日数 10日未満を含む	10	2万円

高額医療・高額介護合算制度を利用できます

☎ 0178 56 4218

国民健康保険と介護保険の限度額を適用後、両方を合わせ、次の額を超えたときは、超えた分の金額が支給されます。対象費用や所得区分など、詳しい内容は気軽に問い合わせてください。

●年額の期間 8月から翌年7月まで
 ●合算した場合の限度額

年齢	所得区分	合算時の限度額
70歳未満	一般	67万円
	上位所得	126万円
	住民税非課税世帯	34万円
70歳以上 75歳未満	一般	56万円
	現役並み所得者	67万円
	低所得者II	31万円
75歳以上	低所得者I	19万円

●申請に必要なもの 保険証(国保・介護両方)、印鑑、通帳
 ●申請場所 環境保健課または町民課

●会費 1人350円
 ●共済期間 23年4月1日～24年3月31日

●受付場所 総務課、分庁サービス課

相談日

各種相談窓口を開設
まずは悩みを相談して

☎ 0178 56 4701

●町民相談
日時 2月9日(水) 10時

●行政相談
日時 2月24日(土) 10時

●場所 東公民館
相談員◎中村廣美 ☎ 0178 3848

●場所 中央公民館
相談員◎柏崎良子

健康・福祉

楽しみながら学べる
健康講座を開催します

☎ 0178 56 4218

●医師の健康講座
日時 2月9日(水) 14時

●場所 東公民館
内容 「医者との上手な付き合い方」(講師/はちのへファミリークリニック院長・家庭医療専門医/小倉和也さん)

●場所 東公民館
日時 3月3日(土) 13時半～15時半
内容 「年代別、女性のこころの健康づくり」(講師/県立保健大教授・精神科医/大山博史さん)

●場所 東公民館
日時 2月24日(土) 10時
内容 「根菜類を摂ろう! 長

管理栄養士や保健師の講話、調理実習を2回にわたり開催します。一週間前までに申し込んでください。

生きできるアルコールの飲み方」
2月24日(土) 10時～13時半

②「彩り良く食べよう」
3月10日(水) ①と同じ

●場所 いきいき館
●持ち物 エプロン、三角巾、材料費300円

●赤十字への協力を願います
各家庭を訪問します

2月は青森県赤十字社員増強・社資増収運動月間で

日本赤十字社青森県支部は▼災害救助事業▼赤十字奉仕団のボランティア活動▼救急法などの普及活動など、さまざまな活動を展開しています。活動に使われる経費のほとんどは皆さんからの社資でまかなわれています。

これらの活動を応援する「社員」には、社資を出資すれば誰でも加入できます。行政推進員が各家庭を訪問します。皆さん一人一人の気持ちや、地域の幸せを生み出す力になります。

ごみは夜出さず、収集日の朝8時までに出してください。ペットボトルのキャップやラベルははずしてください

町内会	有楽町/阿光坊/本村/新敷 錦ヶ丘/洗平	住吉町/若葉/青葉/緑ヶ丘 鶴久保/木ノ下/豊栄/豊原 向山/苦米地/洋光台/根岸 黒坂/深沢/一川目/二川目	鍋久保/三本木/三田/間木/曙/ 木内々/染屋/木崎/秋堂/中野平/ 苗振谷地/向坂/本町地区/くるみ団 地/藤ヶ森/いちよう団地/堀切川/ 川口/明神下/横道/日ヶ久保
燃えるごみ	毎週月・木曜日		毎週火・金曜日
燃えないごみ	2月25日(金)	2月22日(火)	2月28日(月)
資源ごみ	缶・プラスチック 2月2日(水) プラスチック 2月16日(水)	紙 2月9日(水) びん 2月23日(水)	
粗大ごみ	2月11日(金)・25日(金) ★有料予約制/1週間前までに申込みが必要です		

祝日も収集します

☎ 環境保健課 Tel 0178-56-4218

国民健康保険

INFORMATION

1 資格異動のときは必ず届け出を

14日以内に環境保健課または町民課へ届け出しましょう。

●国保に加入するとき

- ① 職場の健康保険を抜けたとき
- ② 職場の健康保険に加入しておらず、転入や転出があったとき
- ③ 生活保護を受けなくなったとき

●国保を抜けるとき

- ① 職場の健康保険に加入したとき
- ② 職場の健康保険に加入しておらず、転出や死亡したとき
- ③ 生活保護を受け始めたとき
- ④ 後期高齢者医療制度に移行したとき

届け出が遅れると、保険証を病院などに提示できず医療費が全額自己負担になったり、保険税が二重払いになったりする場合があります。

また、保険証が変わったときは、病院などにも連絡してください。

2 交通事故のときは必ず届け出を

交通事故などで第三者から傷病を受けた場合も、国保を使って受診できますが、必ず環境保健課へ届け出してください。

加害者から治療費を受け取ったり、示談を済ませたりすると国保が使えなくなります。注意してください。詳しい内容は気軽に問い合わせください。

☎ 環境保健課 ☎ 0178 56 4218



場所	日時	行事内容
三田保育園 ☎ 0178 56-2008	1(火) 10:00~11:00	手作りおもちゃで遊ぼう(北部児童センター)
	2(水) 10:00~11:00	手作りおもちゃで遊ぼう(南部児童センター)
	4(金)、18(土)、25(日) 10:00~12:00	たんぼぼクラブ
	10(月) 10:00~12:00	体験保育(2歳クラス)
	14(木) 10:00~12:00	ハンドメイドクラブ(お菓子作り)
	16(土) 10:00~12:00	体験保育(1歳クラス)
	17(日) 10:00~12:00	体験保育(0歳クラス)
	22(火) 10:00~11:30	よちよちひろば(手作りおもちゃ)
	24(木) 10:00~11:30	親子クラブ(おひな様製作)
	*詳しい内容は「たんぼぼつうしん」をご覧ください	
錦ヶ丘保育園 ☎ 0178 56-4051	3(水) 10:00~11:30	豆まき会
	4(金) 10:30~11:30	ひまわりの会(日本舞踊、木ノ下児童館)
	8(火) 10:00~11:30	体験保育
	15(火) 10:30~11:30	ひまわりの会(日本舞踊、北部児童センター)
	24(木) 10:00~11:30	ひなまつり製作
	5(土)、19(日) 15:00~18:00	キッズパレエ&リフレッシュ体操スクール(有料)
菜の花保育園 ☎ 0176 53-8670	8(火)、22(火) 10:30~11:00	歌・手遊び、読み聞かせ(北部児童センター)
	12(土) 10:00~11:30	保育体験
	12(土) 14:00~15:30	わくわくサークル(親子ゲーム)
	18(金)、25(日) 10:30~11:00	歌・手遊び、読み聞かせ(木ノ下児童館)
	1(火) 10:00~12:00	おしゃべりサロン
あゆみ保育園 ☎ 0178 52-2206	3(水) 10:00~12:00	豆まき
	4(金) 10:00~12:00	エクササイズ(いきいき館)
	8(火) 10:00~12:00	お誕生会(12月から3月生まれの子ども)
	9(水) 10:00~12:00	ヨガサークル(あゆみの里)
	10(木)、24(木) 10:00~12:00	はんど&はあと
	15(火) 10:00~12:00	陶芸教室・給食体験
	17(木) 9:30~12:00	おいらせクロバ
	18(金) 10:00~12:00	マタニティほんわかルーム(離乳食)
	22(火) 10:00~12:00	ひなまつり
	*詳しい内容は「きらら通信」をご覧ください	

国民年金♥ガール

うちの妹が20歳になるわ

監修/Shinya.N 絵/Ryo.O



第2、第3被保険者は手続き不要よ♥

教えておいらくん

学生や保険料支払いが困難な人には支払いを「猶予」「免除」する制度があるよ

猶予と免除—どちらも申請が必要だよ。場合によって書類が必要になるから、確認してみてね。



区分	必要な申請
*学生	学生納付特例申請
学生以外	免除納付猶予申請

*学生証のコピーも準備しておいてね。

日本年金機構八戸年金事務所 ☎0178 44 1742
 町民課 ☎0178 66 2246

町介護保険事業計画等 策定委員を募集します

町は23年度「第5期おいらせ町介護保険事業計画・高齢者福祉計画」を策定します。計画期間は24年度から3年間です。
 ▼高齢者や要介護者などの実態把握▼福祉や健康の増進▼介護などに必要なサービスなどを計画します。計画を策定する委員会の委員を募集します。
 ●応募の資格・期限や選考方法など 前ページ「地

町内職場・町内会等対抗将棋大会参加者募集

町内職場・町内会等対抗将棋大会参加者募集
 「第29回三村泰右杯争奪町内職場・町内会等対抗将棋大会」を開催します。
 ●募集人数
 ①40歳以上64歳未満の人(介護保険第2号被保険者)／2人
 ②65歳以上の人(介護保険第1号被保険者)／2人
 ●任期 4月～24年3月
 ●参加資格 町民、町内事業所などで勤める人(大

棋大会」を開きます。

棋大会」を開きます。
 ●日時 2月20日⑧ 受け付け／9時 対局開始／10時
 ●場所 桃川(株)4階ホール
 ●ルール
 ①1チーム3人
 ②無段者同士、有段者同士の対戦は、いずれも平手打ち
 ③有段者・無段者の対戦は大駒落ち
 ●1チームの参加費 一般／3,000円 小／高校／1,500円
 ●申込方法 2月10日⑧までに事務局(みなくる館)へ申し込んでください。

2月の納税相談日 ☎0178-56-4704

税金に関する相談はもちろん、税金を納めることもできます。気軽に問い合わせてください。

	月 日	会 場
夜間納税相談 [17:00-20:00]	1日④	本庁舎 (税務課)
	15日④	
	8日④	分庁舎 (分庁サービス課)
*休日納税相談 [8:30-17:00]	22日④	
	6日⑧	本庁舎 (税務課)

今年度の町税などの納期は、1月31日⑧(国保第7期)で終わります。納め忘れがないか、しっかり納付書を確認してください。



納め忘れをしないためにも、手間のかからない口座振替が便利です

募集します

ソフトバレーボール大会参加者を募集
 ●日時 2月13日⑧ 受け付け／9時半～ 大会／10時～14時
 ●場所 町民交流センター
 ●主催 町ママさんバレーボール協会
 ●参加資格 町民、町内事業所などで勤める人(大



地域密着型サービス 運営委員会委員を募集

地域密着型サービスは、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で生活を続けられるようにするものです。現在、本町には認知症対応型共同生活介護(「認知症高齢者グループホーム」)があります。本サービスの指定などを話し合う運営委員会委員を募集します。
 ●委員の主な役割
 ①事業者指定や指定拒否
 ②事業者指定基準や介護報酬設定について町長へ意見を提言
 ③サービスの質確保、運営評価、運営確保に必要な事項などを協議
 ●募集人数 3人
 ●応募資格
 ①介護保険制度に関心がある町民

学、高校、中学校含む) チーム編成 1チーム・コート内4人(男2人女2人または男1人女3人女4人も可)

●参加料 1チームあたり1,000円(当日払い)
 ●申込方法 2月10日⑧の昼までに▼チーム名▼代表者名▼連絡先▼を連絡してください。
 ●委員の主な役割
 ①事業者指定や指定拒否
 ②事業者指定基準や介護報酬設定について町長へ意見を提言
 ③サービスの質確保、運営評価、運営確保に必要な事項などを協議
 ●募集人数 3人
 ●応募資格
 ①介護保険制度に関心がある町民

2月の納税相談日 ☎0178-56-4704

税金に関する相談はもちろん、税金を納めることもできます。気軽に問い合わせてください。
 ●日時 2月20日⑧ 受け付け／9時 対局開始／10時
 ●場所 桃川(株)4階ホール
 ●ルール
 ①1チーム3人
 ②無段者同士、有段者同士の対戦は、いずれも平手打ち
 ③有段者・無段者の対戦は大駒落ち
 ●1チームの参加費 一般／3,000円 小／高校／1,500円
 ●申込方法 2月10日⑧までに事務局(みなくる館)へ申し込んでください。

日本一安い葬儀社 有限会社 北浜葬儀センター

- ☐霊柩車・病院からの遺体運搬・運賃含め、総費用30万円
- ☐車代を含まなければ20万円から

お客様のご予算に合わせて葬儀料を決定。気軽にご相談ください。

おいらせ町二川目四丁目 73-1468 ☎0178-53-2614

まちづくりフォーラム

「かだる」からこそ ナットクできる まちづくり

町自治基本条例が出来て早2年。まちづくり住民組織「地域づくり協議会」の立ち上げに向け、取り組みが進んでいます。みんなが納得できるまちづくりを目指し「うちの地区ならこうしたい」という思いを、「かだる(=参加する、語る)」ことから始めましょう。参加は無料。気軽に参加してください。

■日時 2月6日⑧ 13時45分から
 ■場所 町民交流センター
 ■主な内容

- 13:45 開会行事
- 13:50 いきいきランラン美化賞表彰式
- 14:05 第1部 ●基調講演「地域特性を生かしたまちづくり〜グッドスパイラルをつくろう」有谷元子さん(青森県地球温暖化防止活動推進センターアドバイザー)
- 14:55 第2部 ●協働する住民側の仕組み『おいらせ町が目指す「地域づくり協議会」とは』(説明)
- 15:10 休憩
- 第3部 ●パネルディスカッション『「かだる」からこそ、ナットクできるまちづくり』(パネラー)
 ☐敷中博さん(下田タウン株式会社社長)
 ☐相馬孝さん(小川原湖自然楽校代表)
 ☐四戸泰明さん(支え合いネットワーク南部代表)
 ☐柏崎利信さん(町連合町内会長)
 ☐コーディネーター
 ☐三浦文恵さん(八戸短大准教授)
- 15:15
- 16:45 質疑応答

企画画課 ☎0178 66 4701

- ✳️ 戸籍の窓
- 馬場虹奈 (樹・由衣) 17人
 - 夏坂昊弥 (卓・ひと美) 三本木
 - 山田修平 (章弘・潤子) 住吉町
 - 小向一路 (悠介・麻衣) 鶏久保
 - 鈴木蘭 (光太・美咲) 二川目
 - 本山蒼空 (和也・梓) 住吉町
 - 福田沙希南 (尚武・由佳子) 青葉
 - 最上颯也 (大輔・志織) 青葉
 - 佐藤柚那 (創・久美子) 上新町
 - 濱下碧桜 (祐邦・薫純) 間木
 - 成田琥珀 (勇也・真紀子) 二川目
 - 赤坂朋彩香 (亘・峰子) 緑ヶ丘
 - 下野創史 (善之・有希) 緑ヶ丘
 - 島山凌汰 (洋平・恵) 中野平
 - 新山環菜 (直樹・幸) 緑ヶ丘
 - 松林由偉斗 (義喜・典子) 木ノ下
 - 山白美伶 (和馬・明菜) 木ノ下

✳️ こんにちは赤ちゃん

戸籍の窓

12月に届け出し、掲載を希望した人を載せています

- お悔やみ申し上げます
- 原田イト 96歳 一川目 15人
 - 藤本きみ 88歳 木ノ下
 - 川口美智子 51歳 明神下
- 結婚おめでとう
- 笹森毅 豊原 5組
 - 米田良恵 十和田市
 - 大柳僚 中新町
 - 石川育代 中新町
 - 久保克哉 藤ヶ森
 - 川口珠美 藤ヶ森
 - 平野誠 二川目
 - 長久保晃子 七軒町
 - 西館拓哉 一川目
 - 小向ゆか子 八戸市



まちの人口 (1月1日現在)

人口	前月比
男	12,209 ↓ 9
女	12,952 ↓ 2
計	25,161 ↓ 11
世帯	9,371 ↓ 1



- 三瀬東海男 77歳 三田
- 岩崎シナ 82歳 二川目
- 久慈松次郎 76歳 一川目
- 村木フツエ 97歳 五丁目
- 久保信明 78歳 藤ヶ森
- 伊藤トミ 88歳 青葉
- 小嶋忠 82歳 一川目
- 柏崎強美 78歳 三本木
- 鈴木末治 89歳 一川目
- 松村文男 76歳 横道
- 大光新之助 88歳 二川目
- 種市櫻雄 81歳 新敷

編集後記

▼過去の青年団活動記録を眺めてみると、先輩たちの燃えるようなエネルギーに圧倒されます。今の時代、行政でやっているような取り組みの多くを青年団員が担っていました。すごいことだなとあらためて感じました▼人は仲間と一緒に、楽しいと思えることはとことんこだわって、徹底的にのめりこむことができます。それが少しでも人のためになり、喜んでもらえると感じたとき、大きなやりがいを感じられると思います。団体の活動だけでなく、普段の生活、地域での過ごし方でも言えることだと感じました▼まちづくり推進委員会が主催するミニ議会では、小学生たちが堂々と意見や提案を述べていました。「自分たちの町を少しでも良くしたい」という思いをしっかりと持ってくれていることにうれしく思いました。

企画課 広報担当
松林 拓大

日・曜	行事名	時間	場所	備考
1 火	リハビリ健康相談	9:30-11:00	いきいき館	理学療法士のリハビリ指導、看護師の血圧測定
2 水	認知症予防教室	9:30-12:00	北公民館	
3 木	転倒予防教室	9:30-12:00	のびのび館	理学療法士の運動指導
4 金	リハビリ健康相談	9:30-11:00	いきいき館	理学療法士のリハビリ指導、相談
5 土				
6 日				
7 月				
8 火	リハビリ健康相談 1歳6カ月児健康診査	9:30-11:00 受け付け/12:30-12:45	いきいき館 いきいき館	理学療法士のリハビリ指導、看護師の血圧測定 対象*21年7月生まれの子ども
9 水	転倒予防教室 2~3カ月児健康相談	9:30-12:00 受け付け/10:00-10:30	北公民館 いきいき館	理学療法士の運動指導 対象*22年11月生まれの子ども
10 木	転倒予防教室 転倒予防自主トレーニング	9:30-12:00 10:00-11:30	のびのび館 老人福祉センター	理学療法士の運動指導
11 金				
12 土	愛の献血	10:00-16:00	イオンモール下田	
13 日				
14 月				
15 火	リハビリ健康相談	9:30-11:00	いきいき館	理学療法士のリハビリ指導、看護師の血圧測定
16 水	健口栄養講座	9:30-13:00	北公民館	
17 木	転倒予防教室	9:30-12:00	のびのび館	理学療法士の運動指導
18 金	リハビリ健康相談 健診結果相談会	9:30-11:00 受け付け/15:00-15:30	いきいき館 いきいき館	理学療法士のリハビリ指導、相談 健診結果を持参してください
19 土				
20 日				
21 月				
22 火	リハビリ健康相談 転倒予防教室	9:30-11:00 9:30-12:00	いきいき館 北公民館	理学療法士のリハビリ指導、看護師の血圧測定 健運動指導士の運動指導
23 水	5~6カ月児健康相談	受け付け/10:00-10:30	いきいき館	対象*22年8~9月生まれの子ども
24 木	転倒予防自主トレーニング 転倒予防教室	9:30-12:00 10:30-12:00	のびのび館 老人福祉センター	理学療法士の運動指導
25 金	リハビリ健康相談 3歳児健康診査	9:30-11:00 受け付け/12:30-12:45	いきいき館 老人福祉センター	理学療法士のリハビリ指導、相談 対象*19年8月生まれの子ども
26 土				
27 日				
28 月				

卒業・入学 記念撮影承ります

★卒業用袴の貸衣装あります★
入学式当日はご予約なしでも撮影できます



Tel:0178-52-2525 / Fax: 0178-52-2603
Web: Yahoo! や Google で「アトリエゆう」を検索
労働大臣検定一級写真技能士の店
有限会社アトリエゆう

※有料広告掲載欄です



16人のミニ議員が熱心に質問

ミニ議会

まちづくり推進委員会（川口弘治委員長）は12月24日、本庁舎議場で「ミニ議会」を開いた。参加したのは町内小学校の6年生から選抜された16人の「議員」だ。「地域を幸せにしたい」「おいらせを誇りに思えるまちにしたい」—地域に寄せる熱い思いを胸に、ミニ議員らは活発に意見を述べた。

ミニ議会は毎年12月に開かれていた。子どもたちに行政や議会の仕組みを知ってもらい、郷土を考えてもらうことで、地域への意識を高めることが目的だ。

10時—議場に開会を知らせるベル音が鳴り響く。議場のドアが開く。16人の「議員」らは少し緊張した面持ちで議場へ入場。席に着いた。

議事を進行するのは、議長を務めた久保田将央さん（木ノ下小6）。「これからミニ議会を開きます」と大きな声で開会を宣言した。

1番小西里佳さん（下田小6）から15番阿部洸太さん（百石小6）まで、15人の議員らは熱心に質問。保護者ら関係



1 川口弘治委員長から委嘱状を手渡される千葉達也さん（木内々小）。緊張が少しずつ高まる
2 西館秀雄町議会議長からバッジをつけてもらう久保田将央さん（木ノ下小）
3 真剣な表情で町の答弁に耳を澄ます子どもたち。次代を担う彼らは「おいらせの宝」たちだ

者は傍聴席で見守る。町長、副町長、教育長は彼らの質問に対し、丁寧に答えた。

議事が終わるとミニ議員らはほっとした表情。坂本怜美さん（木ノ下小）は「少し緊張したけど貴重な体験でした」とにっこりほほは笑んだ。



私たちのまち「おいらせ」をもっと幸せにしたい——小学生議員らは郷土に寄せた思いを熱弁した。



小向誉久さん [百石小]

おいらせ町はスケートが盛んな町と聞きました。でもスケート場がありません。小学生が練習できるよう、スケート場を作ってほしいです。



千葉達也さん [木内々小]

木内々の踏切は、どの方向から来た車が優先なのか分かりにくい。交通量も多く大変危険です。町は事故を減らす対策を考えていますか。



成田顕士さん [下田小]

阿光坊から神明橋を渡ると、ガードレールのない道があります。隣は畑で、もし車が突っ込んだら大変危険です。安全のため整備してほしいです。



佐藤秀一さん [木ノ下小]

木ノ下小学区には広場がありません。町内で最も人口が多い地域なので、運動、マラソンや散歩ができる公園施設をぜひ作ってほしいです。



平内知佳さん [甲洋小]

子どもが楽しく遊べる公園が少ないように思います。サッカーゴールや滑り台などを整備すれば、利用者がもっと増えると思います。



上野嵩史さん [甲洋小]

甲洋小の近くには公衆電話がありません。一川目郵便局の電話まで1キロ以上あります。コンビニなどに設置することはできませんか。



田中奏さん [木内々小]

イオンモール下田から下田公園までの道路工事が進んでいません。いつ完成するのですか。町活性化のため、早く完成してほしいです。



小西里佳さん [下田小]

下田小学校区内に図書館を建ててほしいです。本やパソコンなどを使える場所があれば、今までよりも知識を増やせると思います。



久保田将央さん [木ノ下小]

議員それぞれの町への思いを感じました。進行はとても緊張しましたが、楽しかったです。一生味わえないような経験ができたと思います。



阿部洸太さん [百石小]

日ヶ久保屯所付近の交差点は車が見えにくく、大変危険です。信号を設置すれば、安全に渡れるし事故を防げます。ぜひ設置してください。



佐々木彩乃さん [木内々小]

学校は2学期制になりましたが、3学期制に戻したほうがよいと思います。目標を決めたり、成績をチェックしたりしやすいと思うからです。



坂本怜美さん [木ノ下小]

学校では春に「クリーン作戦」をしています。町内でも毎月1回、家族で参加できる取り組みをすれば、ごみ減量やリサイクルが進むと思います。



日野口愛美さん [木ノ下小]

新幹線が青森まで開業しました。町のパンフレットを車内に置いたり、テレビなどでCMを流したりすれば、町の良さを伝えられると思います。



田村瑠菜さん [百石小]

いちよう公園には以前、釣った魚を入れる箱がありましたが、撤去されました。捨てた魚のにおいがして困っています。また設置してほしいです。



種市有美さん [甲洋小]

よくお年寄りがイヌと散歩しながら一川目や二川目を歩いています。足腰を休めることができるベンチを設置してほしいと思います。



藤井翔子さん [下田小]

お父さんが病気になったとき、おいらせ病院ではすぐに診てもらえなかったです。ぜひ病人をすぐ診てくれる救急病院がほしいです。



将来の夢はツアーガイドになること 人のために尽くせる仕事をしたい

吉岡優衣さん

(若葉)

Profile

よしおか・ゆい★1990(平成2)年下田町(=当時)若葉生まれ。県立三本木高校を卒業後、静岡県立大学へ進学。国際関係学部で勉学に励んでいる。将来ツアーガイドになることを夢見る。「環境サークル」に所属し、地球環境保護の啓発やイベントなどに積極的に取り組む。家族は祖父、父母、兄、弟の6人。現在は静岡市で一人暮らし。静岡県静岡市在住、20歳

「久しぶりに同級生たちに会えてうれしいです。みんなの姿を見て、自分も頑張らなければと感じました」

成人式(1月9日開催)に臨んだ吉岡優衣さん(20)若葉出身は仲間との再会を心から喜ぶ。式典では上久保雄史さんと共に「二十歳(はたち)の提言」を堂々と読み上げた。「これから私たちが郷土の担い手になるのだと実感しました」と話す。

現在、静岡県立大学国際関係学部の2年生。勉強、サークル活動やアルバイトで忙しい日々を送る。「限られた時間で物事を両立させるのは難しいですね」と少々苦笑い。

将来の夢はツアーガイドになることと話す吉岡さん。家族旅行で出会ったガイドの姿に夢が固まっていた。「みんなを幸せな気持ちにできる仕事、誰かのために尽くせる仕事をしたい」と力強い。持ち前の明るさと優しさで、夢に向かって突き進む。



イオンモール下田内に
ブランドアンテナショップ
「おいらせ新鮮市場」オープン。
おいらせの味覚を楽しめるよ。
みんなで遊びに来てね。

「奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち」の情報誌

広報 おいらせ

No.72 2011年2月1日発行号

発行 おいらせ町/編集 企画課/〒039-2192 青森県上北郡おいらせ町中下田135-2 / ☎0178-56-2111 / <http://www.town.oirase.aomori.jp> / 印刷 (株)オダプリント